

洗足学園音楽大学大学院修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院のディプロマ・ポリシーは、次の通りです。

大学院

本学大学院は所定の在学年数を満たし、音楽研究科が定める教育目標及び教育課程に沿って必要な学修成果を修め、その証として、所定の単位を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に修士（音楽）の学位を授与する。

特定の課題については、修了演奏若しくは修了作品及び副論文をもって充てることができる。

音楽研究科

- （１）自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。（専門性、専門実技）
- （２）社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感することができる。（多様性の尊重）
- （３）自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。（協働する力）
- （４）国際社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。（社会貢献・国際貢献・実践的態度）
- （５）論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。（論理的思考力・問題解決力）
- （６）社会における自らの専門分野の意義と役割を理解し、専門家として主体的で創造的な研究活動を継続することができる。（プロフェッショナル）

器楽専攻（ピアノ）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・音楽の歴史について体系的に理解し、様式に沿った演奏ができる。
- ・ピアノ奏者としての演奏技術を身に付け、自己表現ができる。
- ・専門的で多角的な音楽理論の知識を身に付け、活用することができる。

器楽専攻（オルガン）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・オルガンの基本的な奏法を身に付け、自己表現ができる。
- ・楽曲と楽器の歴史を理解し、様式に沿った演奏ができる。
- ・教会での奏楽やコンサートホールでの演奏、オーケストラとの共演など、それぞれのシーンに適切に対応することができる。

器楽専攻（管楽器）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・管楽器の歴史を体系的に理解し、様式に沿った演奏ができる。
- ・管楽器奏者としての演奏技術を身に付け、自己表現ができる。
- ・アンサンブルにおいて、個性を尊重しつつ、協調性を発揮することができる。

器楽専攻（弦楽器）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・弦楽器の歴史を体系的に理解し、様式に沿った演奏ができる。
- ・弦楽器奏者としての演奏技術を身に付け、自己表現ができる。
- ・アンサンブルにおいて、個性を尊重しつつ、協調性を発揮することができる。

器楽専攻（打楽器）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・各種打楽器の基礎的な奏法、そこから発展する技術を修得し、打楽器を通して音楽表現ができる。
- ・音楽の歴史、音楽理論などの専門的な知識を修得している。
- ・独奏、アンサンブルやオーケストラなどの演奏形態に適切に対応できる。

器楽専攻（電子オルガン）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・編曲や創作を行い、自ら演奏ができる。
- ・様々なジャンルを理解し、様式に沿った演奏ができる。
- ・アンサンブルにおいて、個性を尊重しつつ、協調性を発揮することができる。

器楽専攻（和楽器）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・ 古典、現代邦楽、現代作品など、広範な様式に関心を持ち、それぞれに相応しい演奏表現を修得している。
- ・ 独奏の技術と音楽性を高めると共に、アンサンブルにおいて、協調性を発揮することができる。
- ・ 日本の文化における邦楽及び邦楽器の存在意義を認識し、その魅力を国内はもとより世界に発信する気概を身に付けている。

声楽専攻

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・ 全身を楽器として響かせる西洋クラシック音楽の発声法で、作品に対する思いを自在に表現する技術を修得している。
- ・ オペラ、歌曲、宗教曲について、歴史的背景に関する知識を有し、時代・地域・言語の違いによるそれぞれの表現法を修得している。
- ・ 西洋クラシック音楽の基本の発声法や知識を元に、それ以外のジャンルの音楽や朗読など、声を使う様々な場に対応することができる。

音楽教育学専攻

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- ・ 学習目標が明確な、わかりやすい音楽指導を行うことができ、それについての方法を論述研究することができる。
- ・ 能動的学修に導くための創意工夫に富んだ教材を作成することができ、それについての方法を論述研究することができる。
- ・ 文化振興、教育に根付く音楽の企画立案と運営を行うことができ、それについての方法を論述研究することができる。

作曲専攻（作曲）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、
独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- バロックや古典をはじめ、近代・現代の作曲法に精通し、その伝統を継承するとともに、独自の作品を生み出すことができる。
- 楽器法やオーケストレーションを修得し、さまざまな編成での作曲や編曲において、楽譜を制作することができる。
- ジャズや民族音楽など幅広いジャンルに興味を持ち、社会において訴求力のある作品を提供することができる。

作曲専攻（音楽・音響デザイン）

自らの専門分野の高度で専門的な知識・技能あるいは研究能力を用いて、
独創的な発想や思考を適切に表現することができる。

- 音楽理論や専門知識を体系的に理解し、創作において適切に活用することができる。
- コンピューター・リテラシーを身に付け、制作に必要な編集ができる。
- 音響処理技術を修得し、独創性のある音楽を構成することができる。